

学校の教育目標 自ら考え、適切な判断を行い、行動する児童生徒の育成

学校経営ビジョン 県内唯一の自立支援施設内にある学校として「チームで、子ども一人一人を大切にする教育」を推進する。そのことを通して、児童生徒の自己肯定感を高め、原籍校への復学を目指すとともに、将来社会の中で自己実現ができる児童生徒の育成を目指す。

自己評価及び学校関係者評価： A（目標を十分に達成している） B（目標を概ね達成している） C（目標達成の取組や方法に改善の必要あり）

重点目標	目標達成のための手段	取組状況・成果・課題・改善策等	自己評価	評価	学校運営協議会委員コメント
学力の向上 ～個別最適な学び～	(1) 子ども主体の授業（わさび）の推進 (2) ICTを活用した個別最適化学習の推進 (3) スクリーニングテストの活用及び日々のT・Tによる指導の個別化	○授業でICT機器を効果的に活用することで、生徒の思考や考えを大切にしたい子ども主体の授業を推進することができた。 ○転入時にスクリーニングテストや学力検査を実施し、分析することで、一人一人の学力や認知特性を踏まえた指導の個別化を図ることができた。	A	A	・書くことで子どもたちの思考が深まる場合もあるので、タブレットとホワイトボードをうまく使い分けていた。 ・先生たちに子どもを引きつける力があり、生徒の素直な気持ちが表れていて、互いに良好な関係が築かれている。
豊かな心の育成 ～特別支援教育の視点を踏まえた取組推進～	(1) 個別支援計画「振り返り」による支援の変更・調整 (2) 学園と連携した肯定的な行動支援の推進(SWPBS)、教育相談 (3) 全職員参加型による道徳の授業	○毎月、学園職員とともに個別の振り返りを行い、支援計画の変更・調整を行った。 ○年間を通して全職員による輪番での道徳の授業を実践し、多様な考え方に触れる機会とした。 ○毎月、SSTの授業、チャレンジ週間、振り返りという一連の流れで、年間を通して実施できた。	A	A	・先生方が子どもをよく見ており、良いところを褒めている。 ・配慮が必要な生徒の良さをうまく引きだしており、子どもたちは落ち着いて生活している。 ・子どもたちの状況に応じた工夫がされている。
健やかな体の育成	(1) 学園と連携した食育及び性(生)教育の推進 (2) 学園と連携した細やかな状態の把握 (3) 体力向上プランに基づく学園と連携した運動の習慣化	○学校、学園合同の職員朝礼で、前日の学校生活と寮生活の報告をお互いに行い、日々の状態把握に努めることができた。 ○体育の授業や部活動を通して、運動の習慣化を図ることができた。 ●職員による食に関する講話や産婦人科医による性に関する講話等を計画実施することができたが、実生活の実践改善につなげるまでには至らなかった。	B	B	・食に関して課題が残るとのことだが、子どもたちは改善しようと努力している。 ・これまでの家庭での食生活で嗜好ができあがっているため、すぐに改善は難しい。 ・性に関する内容は、話しやすいようでは言いえないことも多い中、本校は、うまく指導している。
学園（保護者）・原籍校・関係機関・地域との連携・協働 ～心のふるさとづくり～	(1) 目標の共有と連携・協働した取組推進 (2) 身近な方々や地域の方々への「貢献」を意識した取組推進 (3) 復学を目指した関係機関、保護者、原籍校等との連携	○児童相談所への通所に学校職員が同行するなど、新たな取組が実施できた。 ○こども園との交流会や住職による講話など、制限がある中ではあるが、行事を通して地域との交流を深めることができた。 ●ふれあい祭などの地域の方が参加する行事を通して、「地域の方が喜んでくれると嬉しい」と、生徒に対して実感させるための更なる工夫が必要である。	B	A	・地域との交流は、子どもたちにとってプラスになっている。 ・先生方は、地域とつながるよう努力している。 ・子どもたちは、「地域の方が喜んでくれると嬉しい」と感じていても口に出していないだけではないか。学校が求める目標の高さと取組はすばらしい。